平成１１年　第４回沼田町議会定例会会議録　（１日目）

平成１１年１２月１４日（火）

午前１０時３１分　　開　会

１．出席議員

議　長	４番	吉　田　好　宏　議員	１番	久　保　　寛　議員
	２番	野　　道　夫　議員	３番	室　田　俊　朗　議員
	５番	中　村　　進　議員	６番	山　田　英　次　議員
	７番	橋　場　　守　議員	８番	大　沼　恒　雄　議員
	９番	横　山　忠　男　議員	１０番	山　木　一　男　議員
	１１番	谷　口　清　治　議員	１２番	吉　田　俊　一　議員
	１３番	絵　内　勝　己　議員	１４番	杉　本　邦　雄　議員

２．欠席議員　　な　　し

３．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

町　　長	西　田　篤　正　君	監査委員	岩　寺　一　之　君
教育委員会委員長	山　本　秀　雄　君	農業委員会委員長	小　西　義　光　君

４．町長の委任を受けて出席した説明員

助　　役	市　橋　忠　晴　君	収　入　役	篠　田　繁　彦　君
総務課長	平　木　昭　良　君	地域振興課長	藤　間　　武　君
財政課長	中　村　幸　雄　君	農業振興課長	矢　野　　潔　君
住民生活課長	佐　藤　幸　一　君	健康福祉課長	松　田　　剛　君
建設課長	野々宮　　宏　君	和風園園長	清　水　勝　之　君
旭寿園園長	高　儀　博　幸　君	ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ長	半　田　昭　雄　君

５．教育委員会委員長の委任を受けて出席した説明員

教育長	久　本　博　美　君	次　　長	金　子　幸　保　君

６．農業委員会会長の委任を受けて出席した説明員

事務局長　　野　原　耕　二　　君

７．職務のため、会議に出席した者の職氏名

事務局長　　石　脇　敏　彦　　君　　議事係長　　浅　野　信　行　　君

８．付議案件は次のとおり

（議件番号）　　（件　　名）

会議録署名議員の指名

会期の決定

議長諸般報告

総務民教常任委員会所管事務調査報告

決算特別委員会審査報告

産業建設常任委員会決算審査報告

町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政報告について

一般質問

議案第56号　沼田町少子化対策基金条例について

議案第57号　沼田町公共施設の暴力団排除に関する条例について

議案第58号　町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議案第59号　特別職の常勤職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議案第60号　町議会議員の期末手当支給に関する条例の一部を改正する条例について

議案第61号　平成11年度における寒冷地手当の額の特例に関する条例について

議案第62号　職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第63号　平成11年度沼田町一般会計補正予算について

議案第64号　平成11年度沼田町養護老人ホーム特別会計補正予算について

議案第65号　平成11年度沼田町特別養護老人ホーム特別会計補正予算について

議案第66号　平成11年度沼田町国民健康保険特別会計補正予算について

議案第67号　平成11年度沼田町公共下水道特別会計補正予算について

議案第68号　平成11年度沼田町水道事業会計補正予算について

議案第69号　団体営土地改良事業の施行について

議案第70号　幌新ダム管理に関する事務の委託に関する協議について

議案第71号　沼田町名誉町民の決定について

発議第２号　広報特別委員会の設置について

請願第５号　農業経営再建対策に関する請願について

陳情第４号　「じん肺被災者の救済とじん肺根絶に関する意見書」の提出を求める陳情について

意見案第15号 林政の基本問題に関する意見書（案）について

意見案第16号 農業経営再建対策に関する要望意見書（案）について

意見案第17号 じん肺被災者の救済とじん肺根絶に関する意見書（案）について

閉会中の継続調査の申し出について
（総務民教常任委員会・産業建設常任委員会）

閉会中の継続調査の申し出について
（沼田高校間口対策特別委員会）

開　会　　午前１０時２８分

（表彰伝達）

○議長（吉田好宏議長）おはようございます。開会前に、この度谷口議員が、町村議会副議長として４年以上の功労により、空知町村議会議長会から表彰されましたので、ここでその伝達式を行います。

○事務局長（石脇敏彦局長）谷口議員、壇上へお出で下さい。

（壇上にて、表彰伝達）

○議長（吉田好宏議長）以上で、伝達式を終了致します。

○事務局長（石脇敏彦局長）なお、吉田議長におかれましても１１月２４日、秩父別町で開催されました空知町村議会議長会の総会席上、議員として８年以上の功労により、直接表彰を受けておりますのでご報告致します。

開　会　午前１０時３１分

（開　会　宣　言）

○議長（吉田好宏議長）これより本日をもって招集されました、平成１１年第４回沼田町議会定例会を開会致します。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

（会議録署名議員の指名）

○議長（吉田好宏議長）日程第１、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、３番室田議員、１３番絵内議員を指名致します。

（会期の決定）

○議長（吉田好宏議長）日程第２、会期の決定を議題と致します。会期につきましては、議会運営委員会で審議されておりますので、議会運営委員長から報告を願います。

（野委員長　登壇）

○委員長（野委員長）　平成１１年第４回沼田町議会定例会の会期につきまして、議会運営委員会の審議結果を報告申し上げます。

去る１２月９日、午後３時から全委員と正副議長出席のもと開催し、事務局より今定

例会の提出議案等の概要について説明を受けるとともに、議長からの諮問事項を受けたところであります。これによりますと、本定例会に提出される案件として諸般報告２件、委員長報告３件、一般質問７人２０件、平成11年度補正予算６件、一般議案１０件、追加予定のもの１件、また議長に提出されました請願書、陳情書、意見書等１２件の内３件につきましては採択すべきものとして取り扱うことで意見の一致をみたところであります。

以上、付議事件全般について審議しました結果、本定例会の会期としては本日１４日火曜日から１６日木曜日までの３日間とすることで意見の一致をみております。

以上、申し上げ、議会運営委員会の報告と致します。

○議長（吉田好宏議長）　お諮り致します。本定例会の会期は委員長報告の通り、本日から１６日までの３日間に致したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）　ご異議なしと認めます。よって、会期は本日から１６日までの３日間と決しました。

（議長の諸般報告）

○議長（吉田好宏議長）　日程第３、議長の諸般報告については、前定例会以降の議会の動静、例月出納検査結果報告書を提出しましたので、ご覧願います。

○議長（吉田好宏議長）　日程第４、総務民教常任委員会所管事務調査報告を議題と致します。委員長の報告を求めます。山木委員長。

（山木委員長　登壇）

○委員長（山木一男委員長）それでは、総務民教常任委員会の所管事務調査報告を行います。本委員会は、申し出た案件について調査を終了したので、その結果を次のとおり会議規則第７７条の規定により報告する。

（以下、調査報告朗読）

○議長（吉田好宏議長）　委員長の報告が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これにて本報告は終了

致しました。

○議長（吉田好宏議長）　日程第５、決算審査特別委員会の決算審査報告を議題と致します。委員長の報告を求めます。委員長。

（久保委員長　登壇）

○委員長（久保寛委員長）決算特別委員会のご報告をお手もとの文書をもって、朗読をもってご報告申し上げます。決算特別委員会報告。平成１１年第３回沼田町議会定例会において設置され、付託された案件について審査の結果を次のとおり会議規則第７７条の規定により報告する。

（以下、調査報告朗読）

○議長（吉田好宏議長）　委員長の報告が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。はい、７番。

○７番（橋場　守議員）７番。委員長の報告では、認定を良とするということで結論が出ている訳でありますが、私は、当初予算にも反対していますので、決算を認定する訳にはいかないという立場から、意見を述べたいと思います。

平成１０年度の初議会で私は、当時篠田町長に対して、篠田町長の町政執行方針を見て感ずる事は、国の悪政や日本経済の低迷の原因がまったく認識の報告が誤っている。そういう立場から、沼田町の予算を組んでも、それは色々と努力はするけれども根本的な解決にはならない。そういう立場から、予算に、色々とまだ沢山の問題を挙げて反対をした訳であります。

私は特に最近の、自民党・自由党・公明党の連合の中で非常に数の暴力で、国民に対する悪政がどんどん推し進められて行っているという中で、私は町の職員は、町民の立場に立って、町民の人達に役に立つような色んな施策をしたいと思っても、この国の悪政のもとでなんとも出来ないという、そういう大変苦労していると思うんです。そこで私は、この人達の姿勢を報いるためには、どうしても町の理事者の人達の、国の政治や今の経済・政治に対しての正しい認識が必要だと思うんです。そうでなければ、職員の人達の努力というのは中々難しくなってくる。前の議会で私が紹介しましたけれども、

アメリカのガルブレイ教授という人が、経済学者の人が、バブルというのは資本主義の世の中ではしょっちゅうある事なんだ。珍しい事ではない。こういうバブルの崩壊にあたった時に、政治家或は国がやらなきゃならない事は、経済の方向を見失って、色々な暴走的な経済政策をやって、それによって失敗した人達、この人達を救うのではなくて、このバブルの崩壊によって、苦労している人達。例えば会社が潰れたら、それは仕方が無いことだ。これを救うのではなくて、その会社の倒産によって失業にあえいでいる人達、つまり罪のない人たちを国が救うという事が大事なんだ。こういう事をお話しました。だから私が、篠田町長に対して、町の執行方針にはそういう国の悪政に対する、抵抗する姿勢がない。この事を指摘したのは、やはり理事者が、この国の悪政に対して立ち向かうという立場にたっていれば、職員もやはりそういう立場で仕事できる訳であります。私が言いましたように、こんなにとんでもない事を自治体に押し付けてくるような、国の政策の中で是非、担当課長達が色々な問題で、支庁や道との会議に行ったときには、町民の立場に立ってもっとけんかしておいでと、悪い言葉ではありますけれども、抵抗しなさいと言う事を話しましたが、こういう立場にたてば、町職員は本当に町民の立場に立って、活動する事が出来るのではないか、こういうふうに私は考えて、この姿勢方針に対する理事者の姿勢というのは本当に大事だと思っております。そういう事で、私は、米の問題も出しました。今回又町長が、色んな支援をするようでありますけれど、根本的にはやはり町ではやり得ない事なんです。根本的な解決をするのには、どうしても国が米の或は他の農産物価格の下支えをする。こういう事をやらせなければ、町だけでは背負う事の出来ない中身になっております。こういう立場から私は、何としてもですね、執行する関係で理事者の態度は必要だと、大事だという立場から、その点が大変欠けていた、そういう欠けたままで１０年度の予算が執行された。こういう事から、この決算には反対を致します。

○議長（吉田好宏議長）他に、ご意見ございませんか。はい、１番。

○１番（久保　寛議員）１番。７番議員の意見は、本来であれば、質疑であれば私が応える立場でございますけれども、どうも意見の中で、出てきたのは非常に遺憾でございます。お聞きのように、橋場議員は、持論を申し上げていたとこでありますけれど、ご承知のように、本決算特別委員会の立場の中では、７番議員は副委員長という立場でもございます。しかも、この事については、十分３日間時間をとりまして、議論を致しましたし、本日も開会前に時間を頂戴して色々皆さんの意見を聴衆した結果、ご報告をさ

せて頂いたものと私は理解しております。もとより、橋場議員は、十分議会経験を積んでございますし、またその事には十分理解をした上でのご発言だと思いますけども、いずれに致しましても、彼の立場からいって今日のこの意見というものは、非常に不適切であると存じます。議長から十分ひとつ、注意をして頂きたいと言う事を申し上げまして、私の意見と致します。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○７番（橋場　守議員）いま久保委員長の発言は、議長途中で止めるべきなんですよ。私が言ったのは、久保委員長に言ったのではなくて、町の理事者に対して、決算をどうするかという事で発言したんであって、久保委員長や我々が協議した、その中身について言っている訳でないので、そういう事で議事進行を旨くやって下さい。

○議長（吉田好宏議長）他に、ご意見ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）本決算を認定することに、賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（吉田好宏議長）それでは、本決算は委員長報告のとおり認定することに決定を致します。

○議長（吉田好宏議長）　日程第６、産業建設常任委員会の決算審査報告を議題と致します。委員長の報告を求めます。委員長。

（中村委員長　登壇）

○委員長（中村進委員長）それだでは、産業建設常任委員会の決算審査報告致したいと思います。平成１１年第３回沼田町議会定例会において、付託された案件について審査の結果を次のとおり会議規則第７７条の規定により報告する。

（以下、調査報告朗読）

○議長（吉田好宏議長）　委員長の報告が終わりました。これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）質疑なしと認め、質疑を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本決算に対する委員長の報告は、意見を付し認定すべきものであります。お諮り致します。本決算は、委員長の報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって、本決算は委員長報告のとおり認定することに決しました。

○議長（吉田好宏議長）日程第７、一般行政報告を議題と致します。始めに町長。

（西田篤正町長　登壇）

○町長（西田篤正町長）平成１１年の第４回の定例会を召集させて頂きましたところ、全議員の皆様方のご出席を賜わりました事を、心から感謝と御礼を申し上げまして、一般行政報告をさせて頂きます。

（以下、平成１１年度一般行政報告書を朗読）

○議長（吉田好宏議長）次に、教育長。

（久本博美教育長　登壇）

○教育長（久本博美教育長）第４回沼田町議会定例会にあたりまして、９月定例会以降の教育行政報告を申し上げます。

（以下、平成１１年度教育行政報告を朗読）

○議長（吉田好宏議長）以上で、行政執行方針を終わります。

（議事日程の順序変更）

○議長（吉田好宏議長）議事日程の順序変更について、お諮り致します。この際、日程の順序を変更し、日程第１３、議案第６０号。町議会議員の期末手当支給に関する条例の一部を改正する条例については、日程第７、町長の一般行政報告並びに教育長の教育行政方向の次に変更し議題に致したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって議事日程の順序は変更して議題とする事に決しました。

○議長（吉田好宏議長）日程第１３、議案第６０号。町議会議員の期末手当支給に関す

る条例の一部を改正する条例についてを議題と致します。提案理由の説明を求めます。総務課長。

○総務課長（平木昭良課長）議案書の真中あたりだと思いますが、議案第６０号でございます。町議会議員の期末手当支給に関する条例の一部を改正する条例について、町議会議員の期末手当支給に関する条例の一部を改正する条例を別紙のとおり提出する。

平成１１年１２月１４日提出。沼田町長。次の頁でございます。

（以下、条例の説明）

○議長（吉田好宏議長）説明が終わりました。これより、質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）質議なしと認め、質議を終結致します。これより討論に入ります。ご意見ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご意見なしと認め、討論を終結致します。本案について、採決致します。お諮り致します。議案第６０号は、原案のとおり決することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり決しました。ここで、休憩致します。

１１時１６分　休憩

１３時４１分　再開

○議長（吉田好宏議長）再開致します。日程第８、一般質問を行います。始めに、町長に対して通告順に、順次発言を許します。３番。室田議員、農業・農村問題の１のイロハニについて質問して下さい。

○３番（室田俊朗議員）３番、室田でございます。農業・農村問題につきまして、４点程、町長にご質問致します。

まず１点目が、第４次沼田町総合振興計画の策定における沼田農業の位置付けについてでございますけれども、本町も昭和５６年に、生涯と福祉を高める活力ある町の建設を大目標に、第２次沼田町総合振興計画を策定致しまして、その後実現に向けての各種事業、

施策を積極的に展開してきたところでありまして、その評価の上に平成３年に、第３次沼田町総合振興計画、いわゆるグリーンスコーレぬまた２１を策定したとこでございます。基本構想が、平成３年から１２年まで、実施計画におきましては、３年周期の短期計画として３年ごとに、それぞれローリングさせてきたところでございます。今後、第３次の評価のもとに、第４次の検討に入ると思いますが、その中で、本町の農業が果たしてきた、多面的そして広域的機能をどう評価しているのか、それと共に、就業人口の30%。町域面積、これは森林を除き約6,384haあります。その中の農地が、4,000haという事で、60%以上を占めている農業農地の荒廃が、地域社会に及ぼす影響についてどのように考えているか、お聞かせ願います。以上の評価の中で、第４次振興計画の中にどう沼田の農業を位置付けていくのか、お伺い致します。

続きましてロの第２点目でございますけど、新たな水田営農対策、これは転作の関係でございますけど、土地利用型農業活性化対策と、今後の米のガイドライン配分につきまして質問致します。今後５年間に及ぶ、水田営農対策の中で、まさに最高７万３千円という額をキャッチフレーズに、まだその詳細は決まっていない訳でございますけど、１年２作、２年３作、又１２haから１６haの団地化、又土地の利用集積等、我々現場にいる農業者は、その知恵を技術を駆使しても、まさに飛び越える事の出来ない高いハードルの設定でございます。今後、行政又農協が、そして各団体が主体となりまして、今後５年間の基本計画策定のための、水田農業推進協議会が設立されると思いますが、この高いハードルをクリアするための団地化、土地集積等また休耕、転作から畑作蔬菜、園芸等への定着のシステムをどう考えているのかお聞かせ願います。

次に、北海道独自の米の作付け仕様といたしまして、平成１４年から実施されるであろう米のガイドライン配分でございますか、今後は生産力、商品性、販売力の点数制と共に、７段階制で点数の多い上位グループに米の作付け面積が優先配分される訳であります。現状、それぞれ行政、農協、農民の努力がありまして、現状では本町も点数では全道１２０町村中、１４位でございまして、ランクも６位で上位ではございます。しかしながら、空知管内では、深川市、新十津川町が最上階のランク７になっております。今後、本町もランク７に向けた農民、そして農協の努力と共に行政の誘導策が必要と思いますけど、この辺どう考えているかお伺い致します。

次にハの、農地の保全管理でございます。最近、米価の見通しが不透明、また担い手農家、認定農業者が自分の経営が成り立たないという事から、規模拡大を積極的に進められ

ない状況にあります。特に若い担い手の中には、もうこれ以上の規模拡大、新規投資、負債の累増は望まない。それによって、不耕作地、荒地が発生してのしょうがないという、まさに諦めの声も多く聞かれます。こういった状況の中、今後不耕作地、荒地の発生が予想されます。行政としての対応を、どう考えているかお伺い致します。

最後になりますけど、国営事業雨竜川中央地区の地元負担軽減の関係でございます。この関係につきましては、６月定例会でも質問させて頂きましたけど、沼田ダムとそれに付随する灌漑排水の農業負担部分の軽減についてであります。６月の質問のおり、町長の答弁の中で、今後それぞれ空知管内又、１市５町の中で協議をして、国・道に、そして開発に強力に働きかけたいという事でありましたけど、今日まで空知管内また、１市５町の中で、どのような話し合いを行われてきたのかそして、国・道・開発局にどのような働きかけをしてきたのかお伺い致します。以上４点、宜しくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）農業振興課長。

○農業振興課長（矢野潔課長）それでは４点ほど、ご質問ございまして、一つ目の第４次農業振興計画の中に、本町の農業の振興をどう位置付けるかと、農業については多面的機能、その辺の評価、捕らえ方その辺についてご質問がございました。また、農地の荒廃でありますけども、この事はその本町の農業にとってもどういった影響を及ぼすのか、そういった事で２点。まず、一つ目の質問でございますれども、勿論農業につきましては自然環境と調和した、生産活動を行う事を通じて農村の景観を形成し、さらに国土の保全生態系の維持という農業生産以外にも、大きく多面的な機能を果たしている。このように認識しているところでございます。また、一定の評価の中では、計算的に評価をされまして、この多面的機能でありますけども、国土全体の中では７兆円というのは、概算でありますけれどもそのような評価も成されている所でございます。いずれに致しましても、本町にとりましては、基幹産業でございますので、離農によって就業人口の減少或はその事によって、農地が遊休化するこういった現象が生じてまいりますと、当然本町発展に大きな影響があるものと、このように認識するものでございます。いずれも、この後本町の基幹産業、農業に対する支援でありますけどもそういった観点から、強力に再生産に向けた意識を含めた、そういう点で支援をさせて戴く、こんな事で減収対策等も後ほどまた提案する予定もなってございますので、その点また大切な本町にとっての基幹産業、農業であるという認識をもってございますのでご理解頂ければと思います。

また、後段の農業を守り、農業を発展させていく考えに立って総合振興計画、これが間

もなく策定の時期にあたりますので、これら本町の総合振興計画と合わせて農業振興計画の中にも、関係機関と十分連携を取りながら今後農業振興をどう図るべきか、この事を十分検討そういった事情を踏まえながら網羅していきたい、このように考えております。

二つ目のガイドラインの関係でございますが、これも新聞報道がございまして、最高で73,000円、或は捕らえ方によっては63,000円、このような事で数字的な、金額的な事が一人歩きしているような懸念も一面にございます。いずれにしましても、水田を中心とした土地利用型農業活性化大綱、これが10月に示されまして、その後担当者レベルで説明会があった訳であります。現在の所は、基本的な事項についてはそう大変わりはない訳でありますけれど、一番基礎となります交付要件、大きくは団地形成これが大きく左右する訳でありますけれども、これらの要綱細部に渡る要綱についてまだ、示されておりません。ある程度の手順はあるものの、細部の煮詰めがまだ道・支庁の段階で説明されておりませんので、まだ今の段階では公表するには至っていない訳であります。いずれも、これが２月に担当者レベルで再度、その細部についての要綱が示される予定になってございます。そのようなことで又、ご理解頂ければと思います。この、水稲を中心とする対策でございますけれども、言うまでもなく転作田を有効に活用する。高収益な作物を作付けをする、所得の増大を図る。こういった事が大きなねらいでございまして、そのことによって本町の農業の活性化を図っていきたい。これが基本的な考えであります。いずれに致しましても、従来の転作手法と大きく変わる訳でありますし、また、団地化によって手取りとなるか、ならないかこの事によって大きく経営にも影響がありますので、この辺も十分農協関係団体と連携をとりながら、生産者にもこの制度を十分理解戴きまして、より良い取組みそういう方向で、指導を重ねて行きたいこういうふうに考えております。ご理解を頂ければと思います。

それから、米の評価のランクの関係でございますけれど、議員がおっしゃられました、６段階の全道では１４番目と事実評価をされてございます。いずれも、これにつきましては単に１等米の高位品質米、こういうものを出荷すればランク付けが高い。そういう事ではございません。反収の水準、いわゆる反収或は集荷力、そういったものを総合的に判断されまして、全道がそれぞれランク付けされた訳であります。そういった中に、６段階でありますから、かなり上位に当町は占める訳であります。今後その、ガイドラインの配分、こういうものが～～～提示をされましたので、例えば転作が強化されると、４ランク以下がその分、転作が強化をされる。で、５ランク以上はその％によって、逆にその分の米の

作付けが可能である。これが３％、５％或は10％、15％の試算の中で、それぞれ町村ランク別に想定された数字も、一応仮定で示されておりますけども、いずれも今後１３年以降につきましては、こういうその地域の米の生産状況、そういうものを加味されまして、そういう評価の中でガイドラインが配分されていくという事になろうかなと思います。従いまして、その６ランクで決して満足している訳ではありませんけども、更に次年度以降、評価変え、見直しが年次ごとにされていくと思いますので、やがて７ランク、今の生産の状況の中では、７ランクも夢じゃなくて、近いうちに現実化されるのかなと、そういう希望期待ももっております。いずれも、そういう状況でございますので、これらの生産者或は農協の指導といいますか、そういう事のご質問でありますけども、十分その６ランクに甘んじる事なく、生産者共々努力を重ねていかなければならないのかな、こんなふうにも考えております。

それからハの、農地の保全関係でございますけども、荒廃地が今後大量に発生が予想される。これについての行政としての対応、考え方でございますが、勿論遊休農地、これは全国的にそういう傾向にございまして、お蔭様でといいますか、府県がかなりそういう兆候、傾向にありまして、北海道においては多少増加傾向にあるものの、当町におきましても、現在まだ遊休農地そういう発生には至っていない訳であります。勿論これは言うまでもなく、遊休農地の発生に至るまでの要因、そういう過程の中での原因課題というのが色んな面でたくさん課題を抱えている訳でありまして、当然、その遊休農地の解消、局面だけの対応では到底問題解決にはあたりません。そういった事から、従来も農業に対する施策・予算、その時あるごとに関係団体とも協力しながら、協調しながら、どうその～～で農業に支援すべきか、こんな事で節々にそういった対策を講じてきているものでございますし、特に将来にあってこの遊休農地が出ては困りますから、この事も十分念頭に置きながら、来る農業振興計画、或は次年の予算検討段階でも十分関係機関と連携をとって協議をしてまいりたいと考えております。

それから最後の、雨竜川中央地区のガイドラインの関係でありますけども、これにつきましても、今月の２２日にガイドラインの負担、或は計画変更についての担当者の会議が開催される予定になってございます。その場では当然、概算事業費でありますけども、このことが示されまして、ある程度行政において負担をする、内諾そういった準確約的な文書での取り交わし、そんな事が今後予定されておりまして、年明けまして２月の中旬辺りに市町村が大分の負担をする。そういう前提の中で、計画変更の承認、各受益者個々に承

認が必要でありますので、そういった組合員の説明がなされる予定になっておりまして、１２年中にはですね、計画変更の変更審査委員会、こういった組織がございまして、この中でそれぞれ関係機関に聞き取り調査をしながら、この計画変更が有効であるかどうか審査をされ、これが実行に移される。そういう運びになっております。以上でございます。よろしくご理解戴きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）３番。

○３番（室田俊朗議員）－再－　それでは、再質問させて戴きます。今、課長の方から最終的には今後の問題につきましては、関係団体と連携を取りながら対応して行くという事でございますけど、特に私が聞きたかったのは、その中で行政としての対応をどうしていくのか、協議する前にある程度行政の腹があってもいいのではないかという気がするのですが、その辺を再度質問したいと思います。

それと、イの関係、ロの関係につきましては、この後また杉本議員さんらからも質問あろうかと思いますけども、それで平成９年４月にですね、北海道農業農村振興条例が制定されておりまして、この前文で北海道の農民のみならず、広く国民に食料を安定的に供給するなど役割を担っております。農業農村の振興が、地域の経済社会の健全な発展に寄与する事を改めて認識する。しかし、今日農業農村を取り巻く状況が大きく変動する中、農業を魅力あるものとし活力ある農村を築き上げるために、創意と工夫に富んだ担い手を養成し、農地を適性に保全しつつ生産経費の節減を図りながら、安全且つ良質な食料の供給に努めていかなければならない。このような条件のもとで、この北海道農業農村振興条例が実は制定されまして、これが平成９年の３月なんですけど、その第１章から第４章までになっておりまして、全３５条からなっております。第１章ではそれぞれ、道・市町村農業農村振興に対する責務、第２章では農業農村の振興策としてのそれぞれ、集積の関係、担い手確保の関係、また、定住環境の整備の関係に触れておりまして、第３章では、それぞれ農業農村のふれあい促進基金の設置の関係が謳われておりまして、第４章では、それぞれの振興計画を建てるための諮問機関の設置が書かれております。以上、今、北海道農業農村振興条例を簡単に説明させて戴いた訳でございますけど、今後、４次の検討に入るという話もきかさせて頂きましたけども、この４次の振興計画の策定にあたっては、沼田農業の明確な位置付けとして、北海道の今の振興条例に基づいて、沼田の農業農村振興条例が出来ないかどうか、その辺町長さんにお聞かせ願いたいと思います。

もう１点が、雨竜川の中央地区の関係ですけども、この関係も雨竜川中央地区期成会が

中心になりまして、それぞれ町村の関係、また、それぞれの議会の関係に要請にまいっておりますし、まあ国・道に対する要請活動も行っております。今聞いた中で、今月の２２日ですか、担当者会議が行われるという事でございますけど、これは町村長でなくて、担当職員の会議なのか、町村長の会議も行われているのかどうか、この辺合わせて聞かして戴きたいと思いますし、前回申しましたけども、沼田ダムの関係につきましては所在市町村でもありますし、本町の観光ゾーン、環境保全の関係のそれぞれ指定地域でもございますので、是非とも町長さんが中心になりまして、この協議会也を積極的に推し進めて頂きたいと考えております。以上につきまして質問致します。

○議長（吉田好宏議長）農業振興課長。

○農業振興課長（矢野潔課長）一つ目の、農業振興をどう行政として、推し量って行くかという事で、ご質問でございますけども、これにつきましては総合的な表現になりますけども、いわゆる今後の農業を、こういった厳しい事情、米事情で、環境下でありますので、今後どう農業振興を図っていくか、どうすべきなのか、それぞれの役割、そういう中において、十分当課の中にも企画室、そういった組織もございますし、十分今後に向けてそれを検討加えて行きたい。勿論、その中には町内部では総合的な振興調整そういった一面もございますから、当然関係団体とも後に連携を図りながら、その取組む方向について検討を加えていきたいと考えますので、ご理解頂ければと思います。

それから二つ目の、振興条例でございますけれども、これにつきましては食料・農業・農村基本法、これが制定をされまして、この８条の中に、地方公共団体行政としての果たす役割、こういう物が定義付けられております。その精神にのって、道も北海道農業振興条例、こういうったものが策定をされたのであります。それに順じまして各市町村もですね、取組むべきか或は振興条例を作るべきか、これは市町村末端の判断に委ねられている案件でもございます。ちなみに道内では、この空知の中では複数の市が、町村は含まれておりません。市が農業振興条例を制定されている市の例もございます。しかし、当町にとってはその、振興条例をつくるべきかどうか、こういう考え方でありますけども、本町におきましては農業振興計画或は、ご質問にありました第４次の沼田町総合振興計画、当然基幹産業でありますから、そういった農業の振興の位置付け、そういう事も当然網羅されてきますし、前段のその農業振興計画なり、或はまた、その計画のみならず色んな面で、前段で申し上げました、～～～ごとに基幹産業農業という認識から、いろんな支援を強力に推し進めてきている所でございますし、この事は、議員の皆様或は町民の皆様もそうで

ありますけども、本町にとっては基幹産業の農業である大事な産業である、こういう認識の中で理解を頂いておりますから、表現的には適切でないかもしれませんけれども、今のところは特に振興条例を作ってどうこうではなくて、条例がなくしても、その中にも強力な農業振興策が必要なのかな、そういう観点から今後そういう支援を継続的に取り進めるべきでなかろうか、こういうふうにも考える所でございます。

それから、雨竜川中央地区の関係でありますけれども、これは担当者段階の説明会であります。勿論、その負担の関係でございますから、その概算事業費あるいは負担想定額、そういった事も示されると考えておりますけども、いずれも地元財政の非常に逼迫した状態でもありますから、その辺も含めて、どういった国・道の負担、そういった考えをしてやむを得ず最終的に地元の負担と、そういう段階的な考えが十分あるのかどうか、含まれているのかどうか、そういう事も十分意図しながらその説明会に望みたいと考えておりますのでご理解頂ければと思います。

○議長（吉田好宏議長）いいですか。はい。それでは、１４番、杉本議員。農業問題１のイロハについて質問して下さい。

○１４番（杉本邦雄議員）１４番。杉本です。農業問題について、日頃から町理事者の暖かいご支援によりまして農業を声援して頂いている、更に今回も緊急支援という事でたくさんの財政を用いて支援をして頂いている。この事については厚くお礼を申し上げたいというふうに考えております。そこで、いま室田議員の方から、私と同じようなものが出されました。私は、町の振興条例に沿って質問をさせて頂きたいと思いますし、かっこロにあたっては今ほど課長さんからも答弁がありましたし、また、この後４名の方から質問があると、こんな事で省略させていただきたいと思います。

そこで、今ほど室田議員が言いましたように、新農業基本法、これ道の条例から遅れて制定されました。この理念にのった水田農業活性化対策が示されたという事でございます。その内容につきましては、次の頁に数字的に表しておりますが、基本的な考え方は、自給率を向上する。これを前提に土地利用型農業の活性化対策だと、こういう位置付けであります。それからもうひとつは、転作から本作に変わるよと、今までの転作から従来の方向から、大幅に方向転換をしますよという政策であります。従いまして、その中身を見ましてもこの数字ちょっと農家の方でないと、中々分かりにくいと思いますけども、沼田の平均的な数字を使いながら内容を理解して頂きたいと思います。以前でしたら、我々の拠出、一番上に書いてある農家拠出というのは１銭もなくて７万円とか６万円、５万円と、こう

いう事で補償金を頂いた時代があります。しかし今は、例えば１５haの農家の方が２０％これは沼田の平均的な転作率です。これを、本作として位置付けされてこれからしていかなければならない。そういう中で、我々はこの３つの拠出をしなければいけません。従いまして８８万８千円を拠出する訳ですね。まあ転作関係については、一番下、それから自主流通米の国で言われている１０万トンの飼料向けに1,500円、それから米の保険ですね、米が17,000円から15,000円とどんどん下がって行く中で、この保険。これらを合わせまして、88万8千円を平均的な沼田の農家は支払いしなければいけない。

それじゃ助成システムはどうなっているのか、これのとも補償交付金これは全国一律でこも補償しながら、転作した人にあげますよ。転作しない方は１銭もあげませんという事になります。そういう中で、例えば一般作物２ha、特例作物も１ha作りましたよという方であれば、ここに書いてあります50万円が支給されます。これは、我々出したお金からもらうという数字です。その中で、転作多い少ないを調整しますよという中身です。それからその下は、国がこれからあげますよというもので、地区100％達成した時は3,000円あげますよ。それから、経営確立助成で、これはものすごいハードルの高い、我々で言いますと１m50位のバーをつけておいて、それから飛べる人だけあげますよという内容です。その内容は、団地が１２haでなかったらいけないとか、土地を将来集積利用しなさいとか、こういうとてつもない考え方の中身です。それで、これではちょっと高すぎるので特例措置の２年間については、下を該当しますよと、これもまた高いですね、従来団地とした９haの構想です。ですから下でさえ飛び越えられない、これで言いますと１m30位になるでしょうか。これでも飛び越えれないと思うんです一般の人は。少し運動神経のしっかりした人でないと、飛べれない。これぐらいの中身です。ですから、我々の出したお金は、もらいますけども、それから我々がもらえるのは3,000円が確保されている、これは間違いないですよ。まあ100％やればですけど。後については、地区で真剣に討議して、５年の計画を出して、飛び越えた地区だけあげますよ。こういう事です。と言う事で、転作補償金は、当たると思ってこれから取組むと中々難しいであろうと、それだけにとも補償金をもらおうとするならば、地区のしっかりした計画、実行、これが求められる事になると思います。その一番下につきましては、これは米が下がった時の補填です。これは保険で掛けておりますから、下がった分の80％はあげますよ。昨年も頂いた訳でありますけれども、残念ながら80％の補填ですから、どんどん補填される価格というものは、下がっていくという状況です。これがまず、実態であると、転作に対する実態である。それと合わせて、

米価が大幅に下がってきたと、こういう状況です。そういう中で、今ほど課長さんが言われていた中では、〜〜に沿った農業振興条例については色んな面で、農業について対策を立てているから今の所、考えていないと言う事のお話であったと思います。私は、どうしてもこの振興条例ですか、これで質問は２回目になるんですけれども、必要だと思っているんです。それは、町長さんも色々とこの２１世紀に向かってこの役場の行政改革をされております。その中で課の、それぞれの設置を農業振興それから地域振興或は、民生についてもそうでありましたけれども、素晴らしい発想で、これら課の設置をしながら更に基金についても目的をもってという事でされております。しかしながら、もうひとつ町長さんに踏み込んでほしい。これは町長さんが立候補の時に、21世紀をシンボルマークにした、マークを作りながら、次の世紀に向かってしっかりやりますよという公約であります。それは皆さん方も十分知っていると思います。その基幹産業が、こういう状況にある時に、２１世紀はもう１年あります。２００１年から２１世紀ですから、２０００年１年かけて、この作業をしてはどうかなと、そしてこの中身をずっと見ていきますと、条例もちょっと見せて頂いたんですが、農業に関する条例については１６もありますし、そういう中で、整理されていない条例がたくさんあります。例えば、産業振興規則。これは条例ではありませんけども、この中に商工業振興事業とか色々書いてございます。これはやはり、整理をしながら、農業基本法を作って魂を入れなきゃいけないと思うのです。その事によって、農業振興室が目標を持ってやれる。これが基本的な沼田町の農業が、基幹産業という姿勢であろうと思うのです。そういう意味でまず、この点だけで私質問していきたいと思いますので、後は省略致しますのでお答えをお願いしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）農業振興課長。

○農業振興課長（矢野潔課長）不足な所は、町長の方からお答え賜りたいと思いますけど、一つ目の水田を中心とした土地利用型のいわゆる新しい手法でありますけれども、かなりハードルが高い。こんな事で、お話がございましたけども、我々としても確かにそのような認識をしてございます。これは北海道農業にとって、土地利用型の中で、こういう制約はどうなのかなと、率直に言いまして疑問をもっている一人でもございます。まあ、しかし、この国の精神これは勿論いうまでもなく、食料の安定供給と同時に農業の持続的な発展、所得増大、そんな事が主な目的でございまして、あわせて食料の自給ですね、麦、大豆についてはかなり、自給率が低い訳ですから、これらを向上させるという大きな狙いの中にそういう手法が、施されるわけでありますから、地域といたしましては創意工夫をし

ながら、どうすれば合理的な方法でその手法が達成出来えるのか、こんな事を十分、関係機関とも相談していきたいと思いますし、さらに今考えていますのはこの新しい大綱、その手法、要綱が最終的に示された段階で、系統・ホクレンこういうとこが、生産者をある程度日程、あるいは班別に分けまして、こういった説明会をすべきじゃないだろうか、或はその団地化の図面をある程度想定をしまして、モデル的にこうすれば、この用件を満たせる。こんな事で、生産者自ら理解が必要でありますから、そういったことも今後取組んでいきたい。こんなふうにも考えております。

次に、農業振興条例でありますけども、これは前段で私個人的な見解、考え方で必要ないと言い切らしてもらった訳でありますけれども、まあ管内の中でも数市のところが、条例を制定しておりますので、新たな気持ちをもってですねまた、この条例が必要であるかどうか、２，３御指摘も頂きましたし、そのことも含めてですね、理事者とまた、どうあるべきかそういう事も今後又検討を加えてみたい。こんなふうにも思います。宜しく御理解頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）はい、１４番。

○１４番（杉本邦雄議員）－再－　課長さんから、前向きな姿勢も出てきましたけれども、町長さんの方から一声付け加えて、この考え方を示して頂きたいというふうに思います。それで、先ほどからくどくど言っておりますけども、特にこれからの農業に対して必要な事、これは振興計画を立てるだけが目的ではないと思うんです。その立てる前に、どの事を調べなければいけないか、この事が１番大事だと思うのです。そういう精神と言うものも、やはり振興室が農業振興課が動きやすいように、目標を立ててやる。これはやはり、町長のリーダーシップだと思うんです。ただやれやれと言っても、目標がどこなのか分からない。職員も大変だと思うんです。町長はしっかりとシンボルマークを２１世紀に据えて立候補した訳ですから、折角いいとこまで課を分けた。基金を分けたと、だけど条例見たらなんか農業からいろいろ～～ていると、この辺も整理しなければいけないと思うんですね。勿論、加工に対する考え方、町の加工条例もありますけども、町の加工だけでいいのかなと、農家の人はどう思っているのかなと、そういう調査、そういうものをしっかりしなければ目標は立てれないと思うんです。ただ、農家の人の意見だけを聞いているだけでは前に進まないと思うんです。それは、町長さんがよく言うように、農業も本当に大変な事になっていると、そこまでは分かっていただいているようですけども、数字的に私達の所にこんな事で大変なんだよというのが、～～～見た事ないんですね。そういう意味で

は、しっかりした目標を立てて頂いてほしい。そういう意味で、町長さんの決意を聞きたいわけです。で、何点かちょっと、どんな状況になっているかという事で、今回は３日間の期間をもっておりますから、ちょっと長くなりますけども、例えば今回新聞で、色々問題になっておりますけども、道の指名競争入札。これらについても、私どもは大変な影響を受けているんです。これについては、道農連が道に遺憾の意を示す意見書を出してございます。どんな事が大変になっているかと言いますと、私ども町の支援を頂きまして、共穂地区の総合土地改良事業をやってございます。主に暗渠です。これの事業と言うのは、平成５年から今年まで完了でありますけど、１１億円を使ってやっていただいております。それで、入札を見ますと、９８％位で今までしたよと。でも、上川の方で地域してちょっと広げてやってみたら、８８％になりましたよと、こういう事であります。で、町も勿論負担をしていた訳でありますから大変だったと思うんでありますけれども、平成５年の時に、この暗渠の事業費というのは１２万から１３万だったんです。道がパワーアップ事業を出した平成７年以降、これが１４万から１６万に上がっているんです。これで、どういう影響があるかといいますと、例えば女性の人件費が上がった事は良かったと思うんでありますけれども、大体7.8千円のものが、9千円から１万円になったよとこういう事で、これが特作に影響しているんですね。例えば、米バラ施設を作ったんで町長さんの答弁の中に、秋の機械余っているんだから、特作やったらどうだと、みんなそう思ったんですが、やっぱりこの１万円の方に行っちゃったんですね。ですから、折角そういうふうに町がお金を出して、施設を作ったりという事で支援をしているんですけども、農家の方はやっぱり1万円の方に行ったと、こういう事で中々定着しない。

また、こういう問題もありますね。今年あった事でありますけども、入札前に下請けの業者決まっているんです。沼田の方が、私、期成会長ですから、なんとか元請会社に使ってほしいとおねがいしたんです。それはもう先に分かっているから、他の町から人を集めてあるんだと、こういう事なんです。なんとかお願いしてやってもらったんですけども、そういう状況。これ私は、答弁はいりませんよ、そういう調査をしてほしいという考え方です。

また、先にも～～～ありましたけれども、事業を全然した事のない業者が来て、私らの所の暗渠をしました。暗渠掘りのユンボの先の細いバケットで掘るんでないんです。角バケットで掘るんです。その後の始末というのは、全部やり直しです。大変な目に会いました。こんな事で、やはりそういう調査もしっかりやってもらって、道にも報告してほしい

し、先ほど室田君も言いました、国営事業。これらについても大変だよと、そういう調査もして国に訴えてほしいし、この事は振興室がしっかり目標を持ってやってもらう事だと思うんです。そういう意味で、町長さんの考え方を、今の質問については答弁いりませんけども、条例について設けるか設けないかの答弁をお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）色んな御意見を頂きまして、ありがとうございます。私どもと致しましては、まず農業振興計画というよりも沼田町の総合振興計画がどうあるべきかという論議から始まらないと、単に農業の振興、商業の振興だけを論じていても中々町全体の振興計画というのが成り立たない。そういう意味では、度々申し上げておりますように、従来はどちらかと言いますと、ようするに農業の部門にタッチすることが余りにも出来なかったという要素があるんでしょうけども、総合振興計画の中では触れないで過ごしたのが従来の総合振興計画でなかったかなと反省しております。実は第４次の総合振興計画を策定するために昨日、役場の中の職員の各課の代表の委員を委嘱しまして、第1回の会合がありましたけども、私はそういう切りこめない所の農業の部門を、どうやって切りこんで行くかという事が大事なんだというお話もさせて頂きました。私どもは先が見えない農政かもしれませんが、見えないながらも沼田としてはこうあるべきだというものを作り上げて行かなければ、農家の皆さんも納得しないだろうという思いでおりますので、第４次の総合振興計画を策定する段階では、それぞれ中間あるいは色んな課題が出ましたら、議会ともよく相談させて頂きますが、より農家の皆さん方ですとか、住民の皆さんの意見を聞いて策定をしていきたい。その過程で、やはり同時に農業振興計画も進めながら、その整合性も図って行く事が大事なんだろうと思います。申し上げましたように、その農業振興計画それが毎年のように変わって、難しい面は確かにあると思いますけれども、その難しい中で先ほど申し上げたように、中期、長期の見通しを立てていかなければ沼田の農業振興はあり得ないと思っております。ですから、杉本議員さんが言われるように、そういう振興条例を設けたらどうかという、確かにそうかもしれませんけども、私は今その、農業振興課の企画室を中心に、そういう論議をしながら、色んな意見を聞きながら策定していく過程で、農業振興条例が必要だという事であれば、前向きな取組みをさせて頂きたいと思います。いずれに致しましても、それぞれやはり意見を聞いてやらないと行政だけが先行して物事を進めても、住民の皆さん、或は農家の皆さん方が納得できるような農業振興策にはならないだろうと思いますので、確かに決断をする時には早い内に決断をしなけ

ればなりませんけども、意見は十分聞いてその意見が反映されて農家の皆さん方も、自分達もこの農業振興計画あるいは総合進行計画の中に参画をしたんだという、意識を持ってもらう事が一番大事だろうと思うんです。そうする事によって、自らの努力も出てまいりますし、自分達が参画をして作ったという責任感の中で、それじゃどうしたらいいんだという論議もまた出てくるだろうと思います。そういう意味で、決して条例を否定する訳ではありませんけども、今、１３年に向けてそういう作業が進みますので、その過程の中で、そのことも含めて論議をさせて頂きたいと思います。御指摘のように、役場の規則・条例の中には非常に古い物がありまして、私も何度かこの間から見ておりますが、どうしてまだこれが残っているのかなと思ったり、或はこれはもう時代的に合わないよという条例もかなりあります。この辺も十分第４次の総合振興計画が決まるまでに、全体を整理しながら、方向付けをさせて頂ければなと思っております。答弁はいらないという事でしたけど、例えばそういう道営事業だとか色んな事業でですね、皆さん方の目で見て、ちょっと不自然だとか或は感じることがありましたら、これは町の工事も同じですけども皆さん方の御意見、議員さんの目から見てこうだという御意見も聞かせていただければ、私共としては、行政の窓口を通じながらそういう改善の要請をしていきたいと思いますし、今後ともそういう努力もさせて頂きたいと思います。農業が大変だという事を私も十分理解をさせて頂いて、今回の他町村ではそれ程大型な支援をする所は、まだ出ていないようでございますけども、全体で約１億２千万程度の金額になろうかと思いますけども、それだけの支援をするという事は、やはり農業がいかに沼田の中で大事かという事を、私自身は感じて職員と共にそういう大胆な予算を編成した。そんなふうに思っておりますので、御理解頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）１４番。

○１４番（杉本邦雄議員）- 再々ー　皆さん方が必要だったらというような考え方に近いと思うんでありますが、今ひとつちょと力強い答弁を頂きたかったなと、先程から言っているように、町長の公約の中に入っている姿勢の問題ですから、どうしても入れて頂きたい。そういう意味で、質問させて頂いた訳でありますけれども、確かに４次の沼田町の総合振興計画これに沿ったものでなければいけないと思います。その事は十分承知しております。しかしながら、基幹産業が農業であり、この農業というのは沼田で無くしてはいけない産業だと思うんです。そうであれば、しっかりとした魂は入れておかなければならない。魂が入っていれば、おそらく折角室から全部変えたけども、条例がちょっと抜けてい

たとか、私もちょっと見せてもらったらそういう所が何箇所かあるんですよ。やっぱり、そういうものが出来ていたら、きっとこれまで目も行っていたろうそういうふうに考えますし、どうしてもこの基本法というのは要になる。そういった意味で、別に短期的な農業の振興条例作るんじゃなくて、勿論沼田が延々として農業を基本に据えてやっていくんだという姿勢が出てくることによって、色んなところに注意がいく。後の条例とか規則、規定については、その条例の中にそういう規則を置くという事で、やってもらえば良い訳ですから、その魂のところをしっかりお願いしたいということで、もう一度、もう少し前向きのお考え方を示して頂きたいと思いますが。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）申し上げましたように、決してそれをやらないという事ではございませんで、むしろ私は、総合振興計画を策定していく今の論議の中で、色々な意見が出てくるだろうと思います。それが何年も後という事では問題かもしれませんが、それは早い時期にそういうものが出てくると思いますので、そういう一定の方向付けが必要だと言う事は、誰しも考えている事だと思いますから、そういう方向で職員と共に十分論議をさせて頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）それではここで休憩を致したいと思います。１５分間。

１４時３６分　休憩

１４時５７分　再会

○議長（吉田好宏議長）再会致します。１４番、杉本議員。商工業問題２のイロハニについて質問して下さい。

○１４番（杉本邦雄議員）１４番杉本です。商業問題、この件についても前段の町長さんが２１世紀に向かっての考え方、これらに沿っての質問でございます。

農業と同じように、もうひとつの産業。観光更に、商工業の振興。これらについても、もっとこの分野での活躍というんですか、町の活性化、こういうものが必要だと思うんですね。その中で、振興条例を作るという事による活性化というのは、やはり商工業者の意識向上、こういうものが目的やら或は奨励事項が明確になってくる。或は、メニューが選択できる。そういう意味では、その主要となるものが、しっかりとなければいけないと思うんですね、今、色々条例見ても商工業の中で、どちらかと言いますと企業立地に対する支援、こういうものは明確にでております。しかしながら、旧来からある。既存の商工業、

大きい企業の方もおりますし、小さい企業の方もおりますが、特に困っているのは、どちらかと言うと、大きい方より、中から小の企業の方。こういう事かなと思います。そう言う中で、単発的に奨励金やら支援をされておりますけれども、これはやはり総合的に沼田の均衡のとれた商工業、観光を入れての振興を目指して行かなきゃいけないと思うんです。そういう意味では、私は専門家でありませんけど、どちらかと言うとバランスがとれていないなと思います。既存の企業でも、今やっている事業と違う事業を選択した時には、やはり企業の振興規則これらに沿った、支援があって当然だと思うんでありますが、残念ながらそうなっていないように思うんです。そういう意味では、やはりそういった方針が明確に示されて、それが選択できる。そういう支援があって、さあやってみようかという事になるかと思うんです。国でも、これらの方針を大きく展開しております。特に今回の、補正の中で次の対策として、ベンチャー企業であるとか、情報産業である、こういう事で、明確にそれらを打ち出しております。そういった中で、そういう志のある方が選択しながら努力する。こういう方針になってきております。そういった意味では、この条例の中でも、商工３本、更に観光という事で、設置という条例はたくさんありますけれども、振興という中では産業振興の中で、農業商業が１本になって出てきております。これらを分離しながら、整理しながら、更に商工業者の方がやるぞという意欲を持たせるような条例を作って支援していく事が必要でないかと考えております。

ロの件については、そういう振興条例を作った、これを基本にして沼田ではこういう考え方の商店の方がいて、そういう事で国とか道に支援を訴える。これが、地方分権の発想だと思うんです。そういった意味での、活路を見出す。そういう意味で、この基本法の考え方を示して頂きたいと思います。

さらにハの方は、さっき言いましたけども、今の所、企業誘致の中では工業団地が優先されて、土地を取得されておりますし、資金の調達も容易に出来るような制度になっております。また、数年間かけて固定資産税の減免もされております。そういった面で、バランス良くやるような方式をお願いしたい。

更に幸いな事に、ニに行きますと、映画のすずらん効果、これらによる五カ山の開発構想。これらも町長さんの、いつになるか分かりませんが公約の中に入っております。しかし、チャンスというのはその時に活かさなければいけないかなと思います。そういった意味では、北竜町の決算委員会、認定委員会の先般行われた中で、ある議員に聞きますと、五カ山の牧場について意見書が出された。将来的な対策をどうしたらいいのか、こういう

中身だそうです。そういった意味では、お互いに沼田も北竜も、この問題については頭を悩ましていると言いますか、将来どうしたら良いだろうという時期にきていると思います。それと合わせて、ほたるの里まで、例えば、ほたる館のほたるの里でありますけれども、これと合わせて明日萌の里というような言い方も出来るだろうし、明日萌をどう効果的に活かしていくか、そういう視点の中で基本的に条例を作って、やって頂いてはどうかという質問でございます。宜しくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）杉本議員さんの、イからロまでについて、お答えをさせて頂きます。振興条例による商業者の意識向上という事でございますけれども、これにつきましては先程、農業の方の振興条例と似たように回答になろうかと思いますが、現在第４次沼田町総合振興計画の基本を、先程町長からも答弁ございましたように、取りまとめの作業をする準備に入ってございます。その中で、商業の振興策についても検討していく事になろうかと思いますが、一方行政側の指導だけといいますか支援ばかりという考え方もどうかと、ある程度商工業者、一般町民の方からの自らの意見或は努力等も、お聞きをしながらそれをもって、町の方でどう支援をしていけれるか、或は、意識向上に繋がるような施策的な支援が出来るのであれば、理事者とまた協議をしながら、そういう対応をしていきたいと、イの部分についてはそういうふうに考えてございます。

ロの地域の発想を、興条例に活かして道や国に具体化して実現化をしてほしいという事ですが、これがどうかという話ですけれども、地域の有効的な発想等については、地域の方々或は住民の方々から、本町の町づくりにおいて色んな意見が出される事について、町の方としても望んでいる所でございます。住民が色んなアイディアを出して頂きまして、全部が全部取上げるという事にはならないとおもいますけれども、その中で有効なもの、町の将来に向かって発展性があるものについては、積極的に道、国、或は町単独ででも、取上げて町の実現化に向けていきたい考えております。

企業誘致と商工業の関係でございますが。企業誘致については、議員さん言われるように、企業立地促進条例の中で、企業者の方については、それぞれ条例の定めるところによりまして、減免ですとか、～～～をやっている所でございます。商工業者にあってはですね、今とりあえず今回の補正予算にもありますように、利子補給等で対応してきた所でございますけれども、日本経済も非常に低迷している状況の中で、各企業が実績が中々上がらない、そんなような混迷をしている所でございまして、これは商工業者の方についても

同じだろうと思いますが、そんな状況の中で、立地企業すでに新しい企業がどんどん呼び込めれるような、企業誘致の展開をしても中々厳しい状況にございます。企業の誘致につきましては、既に立地をされている企業もですね、今後のアフター関係を重点に支援等を検討していかなければならないだろうと思っておりますし、商工業者の方々につきましても、第４次の総合振興計画の中で、どういうような支援が出来るのか、これらにつきましても理事者と十分詰めまして、第４次の振興計画の中に盛りこんで参りたいと思っております。

それから、すずらんの映画の効果による五カ山の観光開発という事でございますが、これにつきましては既に庁舎内で、明日萌駅周辺の整備、それから萌の丘といいますか、五カ山の牧場これと幌新を結んで、どういう観光ルート化を図ろうかという事で、今検討している所でありまして、しいては五カ山牧場の部分につきましては、案としましてはある程度花を植えてという考え方もございますし、これらが出来た時には、北竜のひまわり、或は秩父別のバラ園と結んだ広域的な観光もどうかという事で、観光ルートの検討も今している所でございます。最終的に新年度予算で、恵比島の駅前については、ある程度用地、町の用地がほとんどございませんで、民地でございますから、買収が出来て観光地として整備が出来るものについては、整備をするべく今平成１２年度の新年度予算の方に盛り込みたいというふうに検討してございます。だいたい案が出ましたらまた、皆様の方にお知らせをする事になろうかと思いますが、そういう事ですずらん効果による五カ山、あるいは観光開発の部分については検討中でございますので、御理解を頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）１４番。

○１４番（杉本邦雄議員）－再－　振興条例についての答弁は、ありませんでしたけれども、これはおそらく町長さんからあると思うんでありますが、その点については先の農業の振興条例と同じような考え方でありますので、せっかくここに２１世紀を迎えての地場産業、二つの柱、これが観光を加えてしっかりとやっていけるような、具体的な何をやるという事ではなくて、方向性を示すものですから、それによって振興室、地域振興室の室が動ける。そういうふうに私も思いますので、そういう模索を考えながら、何か良い方法がないだろうかという事でやれると思うのです。それで、例えばの話ですけど、ロの問題でも色々商工業の振興の中で、どうしても若い人達が町の中に入りこめない。嫌ってよそへ行くというんですか、そういう状況があるというふうに聞いてございます。とするなら、例えばの話で、付け加えたようで申し訳ないんですが、米バラ施設のような考え方もある

と思うんです。例えば、共同店舗は町で建てますよ。その中に３、４店コンビニ系の店とか、或はゲーム機を置く、喫茶店があるよ。そういうようなシステムの中で、そばに子供達が遊べる遊園地みたいな小さな遊べる器具もあるよ。車も十分置ける。これは、付け加えて言うようなものですから、町ではもっともっとしっかりした計画があると思うんでありますが、そういうような発想の中で国に訴えていく。全然既存の商工業者が、それは全然そんなものは話しにならないと言う事であれば、また別な案が出てくると思うんですが、そういった色んな発想をしながら国に訴え、そして地方分権の中で私達はこんなものを売っているよという闘いが出来ると思うんです。その裏には、私共は、振興条例をもって、しっかりと町の発展を考えてますとういう裏づけだと思うんです。その説得力というのは、私はかなりあると思うんです。今の状況ですと、設置条例だけで、こういう振興する、特に観光の振興という条文はどこにも見当たりませんし、商工業の振興事業という事で、ここに産業振興規則の中で謳っておりますけれども、ちょっと私は物足らないと思うのです。これでは。そんな意味で町長さんの伺いをしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）杉本議員さんの、先程の農業と同じような関連の質問だと思いますが、申し上げましたように総合振興計画の樹立の段階で、十分検討させて頂きたいなと思っております。私共やはり総合振興計画が、国・道に対するひとつの物事を要請したり、或はアピールする場合のひとつの要素に繋がると思っております。従って、前回の第３次の総合振興計画が非常に、全国的に見てもユニークな総合振興計画だという評価を頂いて、開発或は道辺りにも相当評価を頂いた訳ですから、そういう町職員の発想といいますか、英知をそこに集めて、より良いものを作り上げ、それを土台に国、道にいろいろな事業を展開もまた説明させてもらいたいと考えております。その過程で、申し上げましたように、農業振興条例もそうですけども、商工あるいは観光の振興条例についても、検討の段階で十分検討させて頂きたいなと思っております。今ご提案ありました、共同店舗ですとかいろんな対応については、私共例えばパークゴルフ場の建設を進めようと、内々で進めておりますけども、そういうものが作れるとすれば、そこにはやはり農産物の販売所あるいは、コンビニのストア、或は加入する方がいらっしゃれば、食堂的なものも設けた物をという事で、総合的に物事を進めるという事は、私ども行政としても考えていかなければならないと思いますし、その場合にやはり既存の商工会に加入しております、商店会の皆さんの意見も十分に聞かなければ、今の状況の商店街を抜きにして物事を考えるという事は中々

出来ませんので、その辺を考えながら、やはり言われるとおり将来は共同店舗という事も考えなければ、沼田の商店街というのは成り立たないと思っておりますので、そういう意見を十分いろいろな角度からお聞きしまして、私どもも検討を加えて出来るだけ住民の皆さんの希望に添った、行政を進めるという観点で物事を考えていきたいそんなふうに思っております。

それと、既存の商工業者に対する支援と～～～～～も、私どもそういう意味では、今の明日萌を中心とする観光事業で、いろいろな開発なんかもあるという事で、６月の政策予算の中で、個性ある地域づくり事業という支援する事業制度も設けておりますけれども、現在のところ余り利用はされていない。それは、例えば金額的に額が少ないのか、あるいはもう少し範囲を広げることによって利用されるのか、この辺は来年度に向けまして、政策的な中で、もう少し考えさせて頂いて、出来ればこういう物を既存の商工業者の皆さんが活用してですね、その商工業の中で役立てて頂ければありがたいと思っております。

それから、五カ山の関係につきましては、前々からいろんな論議のあるところですが、私どももやはり五カ山の牧場の経営は非常に厳しいという将来予測をしておりますので、今藤間課長が申し上げましたように、観光の一環としてあの地域を活かしてですね、明日萌から幌新に繋ぐ拠点の整備をしていかなければならないかなと思っておりますので、その辺も、新年度の予算の大枠で、そのような考え方が固まる段階で、議会にもご相談申し上げながら詰めたいと思いますけど、当面、すぐ五カ山牧場を亡くすという事には中々ならないだろう。北竜町と十分連携、協議をしながら、活用の方法について又検討させて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願いを申し上げます。

○議長（吉田好宏議長）いいですか。はい。次に６番、山田議員。観光問題１のイ、ロについて質問して下さい。

○６番（山田英次議員）６番、山田です。只今の杉本議員の方の問題と重複する点が、多々あろうかなと思いますけれども、昨年、今年度と役場の職員さん初め、関係者の皆様方が明日萌の方へお出でになって、日夜大変汗水たらして努力され無事に観光が終わらさせて頂いた、私の方からも厚くお礼を申し上げたいと思っております。この度すずらんの映画化が決定されましたんですけど、大変先日も私、商工会の正副会長の関連で十津川の方に参りまして、北海道の雨竜郡沼田町というふうに御あいさつしたんですけれど、あんまりピンとこなくて、すずらんの明日萌ですというと、ああそうですかとあそこの町が沼田というのですかと、すずらんの方が先で沼田町というのは後になってくるような、そのぐら

い全国的に沼田町が宣伝させて頂いたという事で、歓迎しているとこでございます。そういう事で、映画化される２月に撮影が始まるとお聞きしておりますけれど、これに対して前年度のすずらんのテレビ放映に関しての段取りというか、そういう事に対して色々な苦情それから色々な問題点が、あったかに受けたまわっておりますし、今後そのようにないように早くから、やはり皆様方と協議され、そして私達は観光協会の中身で動かさして頂いたような気が致しますので、それを中心にして計画を練って頂いてより一層の商工効果、観光効果があるように関係機関等のお力をお借りして行きたいと思っておるところでございます。

それで２番目の、観光協会の問題も同じ事なんですけども、沼田町で今観光協会が手をかけて活動しているものは、５月の花見と８月の夜高あんどん祭の二つが特に観光協会、まあ夜高の中には物産展もございますので、それらも含めて夜高というふうに私達、認識しているんですけれども、それらの活動が今の観光協会の活動かなと思っております。ですけども、このすずらんというひとつの観光の目玉が出てきたので、これもひとつ観光協会で検討されてと、当初は観光協会が検討してずっと進んで行った経緯があるんですけども、途中から何か観光協会でなくて、すずらん協力会が主導権を持って運営されていたようにも見うけられる所が多々あったと思っております。それではやはり、核が無いと言いますか、筋が無くて寄り集まりの皆さんが、わあわあとやっているようにも見うけられるので、是非その辺も検討するひとつの課題なのかなと思っております。今、沼田では夜高あんどん、それからすずらん、それからほたる祭、これが３大観光行事なのかなと認識しております。私達の観光というのは、よその他府県からたくさんの人を集めるという事が観光なのかなと、地元の人達が集まって何か催しをするというのが、これも観光なのか、ちょっと私認識不足なんですけども、やはり他町村から集まって頂いて、沼田に来ていただくという事が観光なんだろうというふうな認識を持っておりますので、是非そういう事で、観光協会が中心となってこの３大まつりをひとつ、もう少し広めていったらどうかなというふうに考えておりますけれど、町長のお考えは如何なものでしょうか。

○議長（吉田好宏議長）地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）すずらんの映画化で、今後の対応という事ですけれども、すずらんの映画化については皆さんご承知のとおり、１８日の日にＮＨＫのエンタープライズと松竹とが合同で映画化をするという発表が出され、町民の方々に広報等でお知らせした所でございます。本町におけるロケにつきましては、２月の中旬頃から恵比島明日萌

駅を中心に、展開されるというふうに聞いてございます。６月の封切が予定となってございまして、これと合い重なりましてＳＬの運行につきましても、明年４月の２９日から運行が開始されるという事に決定をされております。１０月にすずらんのテレビ放映が終わりましてから、多少薄れかけていたかなというすずらん効果でございますけども、この映画化がされる事によりまして、また追い風となり、明年度今年度同様の観光客の入りこみを期待が出来ると考えてございます。そこで、明日萌周辺の整備でございますけれども、現在先程お答えしたとおり、検討中でございまして、周辺整備以外にですね、諸々の協力関係、これは観光協会等を中心に致しまして各団体、まあ観光協会の中には改良区、農協、各団体が入っておられますので、そこを中心に今後の展開についてご相談申し上げながら、お願いするとこはする、協力して頂きたいところは頂きたいという事で、お話を申し上げまして、観光協会中心にして物事を進めて参りたいと考えてございます。

また、観光協会の今後の活動と今後の対応という事でございますが、本町の観光に関しましては、観光協会が中心になってその活動の方向付けをするものではないかなと私自身は認識してございまして、それがそういう観光の活動が観光協会で決定される中で、町がそれにどう支援して行くかという事に本来の姿があるのではないかと私は認識をしております。町が全体を決めるという事ではなく、観光協会の会員の皆様方と協議をしながら、本町の観光行政についてどう対応して行くか今後も検討して行きたいと考えておりますので宜しく御理解をお願いしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）６番。

○６番（山田英次議員）－再－　今の課長の説明で分かるのですけれど、１点だけ答弁が無いのは、私間違ったら許して頂きたいと思うんですけれども、ほたるは当初はほたるを育てるという学問的というんですか、生態系の関係でそういうふうな研究でほたるというひとつの物があったんだろうと思うんですけれども、何年か過ぎてほたるもひとつ観光の目玉として、成り立ってきたんだろうという事で、やはりこのお祭もひとつ観光協会の中身に入って、このお祭を行ったらどうかと質問をしたいと思うんですけれども。

○議長（吉田好宏議長）地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）ホタルにつきましては、当初ホタルの会が中心となりましてもう既に全道的に知られるようになりました。ホタル祭につきましては、例年７月の中旬頃から１週間程度行っている訳でございますが、これらにつきましても実際は、ホタルの会の方々がそれぞれ出向いて、説明なりなんなりをして頂いている所でございます。こ

れらにつきましても、観光の中、もう2万人近い方がホタルを見に来られる訳ですから、観光行政と言ってもいいのかも知れません。この中で、ボランティアのホタルの会とですね、また観光協会の方とで協議させて頂くという事で、観光協会の行事として扱うのかどうか、この辺ホタルの会の事情もあるでしょうから、その辺の協議については後日また両者と協議させていただくという事で御理解を頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）はい、６番。

○６番（山田英次議員）ホタルの件は、相手のある事ですからそれは検討して頂いて、ひとつ一丸となってもう少し広げて観光していければなと思っております。１番目の問題はそれくらいにして、２番目に入ってよろしいですか。

○議長（吉田好宏議長）はい。交通安全問題、イからニについて。

○６番（山田英次議員）はい、それでは交通安全、今年もまた沼田町に冬将軍という大変厄介な雪がたくさん降ってまいりました。特に冬期間の交通安全対策に対しまして、２、３点聞きたいと思っております。市街地の除排雪についてですけれども、特に旭町の旧の公営住宅、和風園の隣の公営住宅、それから西町の公営住宅、体育館の前の公営住宅ですが、これらもやはり除雪、排雪が殆どなされていない。旭町の方は、たまに排雪もさせるんですけれども、相当の雪の量が降って、人が歩いていても人の高さよりも積もっているというような状態で、大変機械化が進んで素晴らしい機械もたくさん最近はあるんだろうと思いますし、狭くてどうにもならなければやはり、融雪というか地下水を汲み上げて、そこだけを雪を溶かしてあげるいうような方策も、考えられるのではないかなと。この方何十年たっても何か西町の公営住宅、それからあの狭いとこの公営住宅は、一向に雪に対しての改善が成されていないように見うけられる。

それから２番目の交差点の雪の問題ですけども、どうしても排雪する時には道路の雪は、優先的に持って行ってもらえるんですけども、軒下にある雪があまり持って行ってもらえないものですから、早々と最初から道路の方へ雪を押しておけば持って行ってもらえるとこういうような考え方で、雪を投げているのかそれとも最近大変便利な大型のタイヤショベルといいますか、ああいう機械がありますので一遍にそれを持って行って～～～こういうのが大変見うけられる傾向にあると思うのですが、これらに対しても大きい車は上の方から車の交差するのが確認出来るのですが、小さい自動車になりますと、相当前に出て行かなければ、交差する車を確認できない。余り前に出ますと、昨日今日の雪

ですので、交差点の交通に支障がきたすという事で、大変交通の運行状況が思わしくない。そういう事で、交差点に雪を積み上げるという事があれば、早く取るか、さもなければ出来るだけ公の物ですから、皆さんが心がけて出来るだけそこへ雪を出さないで、排雪の日だけ、皆さんで協力して出すというような方法もひとつかなと、これは交通安全の観点からも是非投げるのをやめるか、積もったら持っていってもらうか、どちらかにしてもらわなければ大変な事だろうと思っております。

それから、３点目は屋根の雪、１１月の末ですか何か町からもパンフレットが出て、屋根の雪が落ちないようにとか、路上にこうだとか、雪に関する交通安全の呼びかけをされていたようですけども、中々パンフレットが回ったから即、それが効果あるかなと思っていたんですが、余り効果がみられないこれら辺りも、もう少し町としても広報活動を再度されてはどうかなと思っております。

４点目ですけれども、これは自分の所の駐車場といいますか私有の駐車場。これをきれいにする。これは大事な事なので、お客さんの車が迷惑かかると困るから、出入りするのにスムーズにいくために、除雪をする事は当たり前なのですが、その雪を全部道路の方に積んでしまうんです。これでは、道路が幾ら排雪してもきりが無いような気がするので、これらの問題もやはりそこへ雪を出さないで下さい。これを放置しておくと、それが良い事か悪い事か、その見境が出来ていないのではないか。それが証拠に歩道に自動車が止まるようになったんですけども、折角開発等が歩道を除雪しているんですけども、そこを駐車場代わりに使っている。こういう状態も多々見受けられるものですから、これが歩道に駐車して良いのか、悪いのか免許証持っている人だと分かる筈なんですけども、これが長く続くとマンネリ化になってそれが正しいものだと認識しているんではないか。こういうふうに思われるところが多々あるんです。これはルールは守らなきゃならない事だと思うので、それを正しいのだ正しくないのだという問題ではないと思うんですけども、やはりそれは町としても何かの方法でそれを知らしめるというか、お知らせするというか、先日お巡りさんともこの件でお話したんですけども、お巡りさんの方では検挙しますという事なんです。指導はしませんと。検挙されると困るものですから、いやいやちょっと待ってくださいというようなお話をしていたんですけども、そういう点もひとつ行政として、行政の立場からもそれでは旨くないのではないかという事で、何かの方法で連絡、通知をするそういうような対策を取られては如何なものか、お聞きをしたいと思っております。

○議長（吉田好宏議長）建設課長。

○建設課長（野々宮宏課長）山田議員のご質問は、交通問題でございますが、特に市街地の除排雪につきまして、４点程となっておりますのでお答えしたいと思います。

市街地の除排雪につきましては、冬期間の生活道路と致しまして、通勤、通園、或は通学路の確保として豪雪地の沼田には必須条件でありますので、民生安定や交通安全対策に特に意を用いまして又、地域住民の協力をお願いしながら実施していきたいと計画させて頂いておりますで、御理解を頂きたいと思います。

旭町旧公営住宅と西町公営住宅の関係でございますけれども、旭町公営住宅につきましては路線の性格から、除雪排雪の余力の出た際に実施させて頂いておりますが、今年も出きる限り実施出来るように努めていきたいと思っております。それから、西町につきましては一部地先の方から、除雪車が入ることによって、溝になるというものですから、余り賛成するというような、一部反対するような声もございますので、まず最初にその地域の条件整備を進めまして、その後に処置していきたいと考えております。まあ、春の雪割りにつきましては例年どおり実施させて頂きたいと思っております。

次２点目でございますが、交差点付近での積雪による見通しの障害という事でございますけども、平成１１年度の１１月ですか、冬期交通確保という事で、関係団体が集まりまして協議させて頂いております。所轄警察署の指導もございますので、国・道・町とですね、道路管理者の連携調整を密にして努力していきたいと思っております。なお、機械を使ってそういう交差点付近に雪を投げているという投雪の件でございますが、これにつきましては地域全体でコミュニケーションを深めて頂いて、良識的に地域が対応していくような事になっていただければ一番幸いと思いますが、パトロール等を通じまして指導していきたいと考えております。

３点目の路上に、屋根雪の落下防止という事でございますけれども、議員がおっしゃったように全戸チラシ等で、事故防止をお願いしている所でございますが、なお安全対策等重ねて実施してまた、実行が上がるようにしていきたいと考えております。

それから、私有地の雪を路上に投雪という事でございますが、沼田町は交通安全宣言の町として特に交通安全には力を入れているところでございますので、冬期間の道路確保につきましても特に、夏と同様これもまた地域住民の協力を得ながら、投げて悪いか、良いかとか、そういう事を地域ぐるみでコミュニケーションを深めましてそういう事は駄目でないかとか、そういう話が雪を通じて出来るような取組みもひとつ必要でないかなと又、今後パトロールや指導を強めていきたいと思いますけれども、原則的には私有地内処理が

原則ですのでこれは、あまりこういう事にならなければと思いますけれども、悪質な事例につきましては取り締まりも止む終えないという事で判断しております。以上でございます。

○議長（吉田好宏議長）６番。

○６番（山田英次議員）－再－　課長さんの答弁、大変つらい答弁なのだろうと思っております。と言う事は、した方に対しても、いけないという連絡の方法も見当たらないから地域住民で旨くやって下さいという答弁なのだろうと思っております。それはそれで良いんですけれども、やはり、たくさん雪がふるんです。少ない時には、あまり問題ないんですけれども、排雪の何日か前だと物凄い雪でバスが交差するのにも大変な状態になるという事で、そういう交通状態の時に事故でもあった時には大変だろうと思っておりますし、やはり地域といっても旭町から西町まで市街地も地域が広いので、中々地域の人達でお話をという事にもなりかねるのだと思っております。その点は、ひとつ宜しくお願いしたいと思っております。私、常に思うんですけれども、雪が降るとどうしても問題出てくるのは国道ですよ、道々ですよ、町道ですよという問題が出てきて、一向にそれは国の道路だから私達あまりできません。だけどそこに住んでいるのは町民が住んでいるんで、そこへ走っているのは町民の車が走っているんですから、事故が起きて貴方達が悪いんですよというのでなくて、やはりそこの整備等々は国だろうが、何であろうが、きちんとして頂かなければ住民も納得できないのではないかなと思っております。最近、私しょっちゅう自動車乗るんで目に付くのが、緑町の踏切りなんですけれども雪が降ってきたとたんに一旦停止が怠ってる車がほとんどなんです。何故かなと思っていると、踏切りに入って止まったら困るから少し勢いのまま、踏切りを通過してしまった方が安全に通過できるという事で、一旦停止をしないのかなと私なりに考えているんですけれども、踏切りをひとつ砂を撒くとか、スリップのしないというか、そういう対策を講じられないものかなと、それと、農機具というか佐藤旅館の横の交差点も、大変一旦停止が怠っているというか、一旦停止の標識もちょっと高い所にある、あれも難点なのかなと、あれを低くするとまた雪に埋まって見えなくなるのかと思ってみたり、あそこに又悪く、消防の消火栓のマークもあるので、消火栓のマークの方が目について、一旦停止の標識が目に入らないのかなと思うんですけれども、緑町の住民の方々だとあそこは一旦停止だという事は、殆どの人が知っているんだろうと思うので、知ってて止まらないとすれば大変な事かな。去年もあそこで、大きい事故があったものですから、ひとつ国だとか道だとか言わないで、町もひとつ止まれ

るような対策を講じていただければなと思うんですけれども如何なものでしょうか。
○議長（吉田好宏議長）建設課長。
○建設課長（野々宮　宏課長）スリップ対策につきましては、前回、砂撒き機を購入させて頂きましたので、今、議員御指摘の箇所も含めまして全体に充実出来ると思いますので、宜しくお願いしたいと思います。それから、標識の高さ、或はいろいろな改善が必要な箇所につきましては、早速改善して事故防止に向けまして万全の対策をとりたいと思いますので、宜しくご理解のほどお願い致します。
○議長（吉田好宏議長）いいですか。はい。次に同じく、ごみ処理問題３のイ、ロについて質問して下さい。
○６番（山田英次議員）それではごみ処理問題につきまして、２、３お尋ねしたいと思います。平成１２年からリサイクル法が施行される、これがゴミを分けて出しなさいという法律と使える物は再利用しましょうという事だろうと思うので、私達、食品衛生協会も何年か前にそういう事で検討し、出来るだけいらないゴミは使わないでおきましょうと過剰包装も避けましょう。こういうような勉強会もされてきた所でございます。町としても、これに関して大変宣伝それから町民にも呼びかけている所なんですけれども、中々旧態依然としてゴミが少なくならない。それから分別はまだ沼田町ではされていないんですけど、隣町の秩父別さんでは缶だとか、そういう物の分別はされているやに聞いております。そういう事で出来るだけやはり再利用の出来る物は、出来るように分別を１日も早くしてはどうかなと思っております。
　それから、これに対しましてゴミの少量化ということにも繋がるのではないかなと思われております。今年のゴミに関して、4,800万も税金を投入して、たかがゴミと思っておりますけれども莫大な経費をかけてゴミの処理をしている所でございますので、町民にもそのくらいの経費がかかって大変なのだと、それで出来るだけゴミは出さないでという事でＰＲをし、町民に認識をしてもらうためにも何か良い方法を考えてもらえれば如何なものかなと思っておりますけれども。
○議長（吉田好宏議長）住民生活課長。
○住民生活課長（佐藤幸一課長）山田議員のご質問にお答えさせていただきます。ゴミの分別についてでございますが、平成12年度から１０品目の容器包装リサイクル法に対応する事になります。北空知衛生組合の事務担当者で、今まで検討してまいりましたが、来年の７月から、缶、これはアルミ缶とスチール缶です。それとビン。無色ビン、茶色ビン、

その他のビンという事になります。それと、ペットボトルの６品目を分別収集出来るように、回収が出来るように最終的な今協議を進めているところでございますので、ご理解を頂きたいと思います。

なお、平成１３年度の４月１日から、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等のリサイクルにつきましても家電リサイクル法が施行されることになります。これらも合わせて検討すべく随時取り進めて参りたいと思いますので、宜しくお願いしたいと思います。

それから、ゴミの少量化対応についてでございますが、ゴミの分別収集する事によりまして、少量化が図られてまいります。更に、平成１４年の１２月から新たな排出基準の適応を受けて、既存の焼却施設が使用出来なくなるという事から、中・北空知ブロックの広域化検討協議会で今検討している所でございますが、生ゴミについては堆肥化又はメタン化の方向で進んで行きたいと考えてございます。そういう処理のする方法も含めて、再度さらに検討を進めて行きたいと思いますが、御指摘のように広報等につきましても、少量化につきまして基本行動としまして不用な物は断る、～～～～～ですね、それとゴミを減らす、～～～～～。再利用する、～～～～～。再資源化する、リサイクルの４Ｒ運動等を含めて取り進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）よろしいですか、はい。それでは、暫時休憩いたします。

１５時４８分　休憩

１６時０８分　再会

○議長（吉田好宏議長）再会を致します。９番、横山議員。農地問題１について、質問して下さい。

○９番（横山忠男議員）９番。横山です。最初に今回、この補正予算につきまして、町長さんの寛大なお気持ちで、基幹産業である農業に対し、今年度の結果を踏まえて農作物や水害や品質の低下等によって、非常に農家の皆さん方が被害を被った。こういう事に対し、寛大な補正予算を組んで頂いた事に、心より感謝申し上げます。

そこで質問にはいる訳でございますが、先程から室田議員や杉本議員さんにご質問あったように重複するところがありますので、なるべく簡単に質問をさせて頂きたいと思いますが、今年の４月に農業経営改善センターの分析で６１歳以上の方々の経営面積が、３２戸で２６６ha。５５歳まで下げると７２戸で６５５haという数字になっております。このことが１０年後を見まするとと、１年に平均でも６０ha以上離農地が出る。こういうふうな

見方をされようかと思います。ましてや、今年の収入が前年対比で見ましても５億も減った。こういった観点から見て、今年の農協の３月の総会で代表監事さんが監査公表でもって、その当時で3,100万円の債務超過がありますよ。こう言って報告をなされましたし、要注意債権までいれますと9,100万円超過債務になるおそれがある。こういった事で、報告をしておりました。不良債権が多くなって農地が、流動化が止まるとすると、農協の力も弱く、最後には今あちこちで合併をしながら、この不良債権に町の支援をお願いしている町村が非常に多い訳でございまして、今回この農地の流動化に対してどうしてでも、このまま農業を続けていけれない方々がいる訳でございまして、先程申し上げた超過債務の3,100万については５戸、それから9,100万については１３戸。そういう数字がありますし、その次にあぶないという債権の注意者も１４戸がある訳でございます。これはあまり、そういった事を詳しく申し上げると、非常に差し障りのある所もあろうかと思いますけれども、どうしてでもこの農地の流動化が急速に来る。これは間違い無いという事で、是非この町長さんにこの対策に対して、どうしてでも何らかの対策を立てて頂きたい。また、この秋の農談会に、今そして２１世紀というこの冊子、組合員に皆さん配った訳でございますけれども、この中に今後規模拡大して意欲を持って農地を増やしたいという方が、５８戸で全体の25.9%がおります。その人方も今年の不作、販売金の低下によって意欲のあった人が非常に意欲を無くしていまわない内に、何らかの方法で町が支援して頂けるものなら、こういうふうな私は気持ちでおりますので町長さんのお考えをお聞きしたいと思っていますので、ひとつ宜しくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）今、横山議員さんから具体的に数字を挙げまして、お聞かせを頂きまして本当に大変なんだなあと改めて又、そういう思いをさせて頂きました。町としてそれを、どうすぐ取組むかという事は、中々難しい状況にあります。道の農業開発公社でも、具体的に農地の保全の管理緊急対策事業という事で事業を進めておりますけれども、それらも非常に取組むのには地元のリスクが多すぎるという点もありまして、これらは単に沼田町だけでなくて、農業を基幹産業とする北海道地域全体の問題だとして道の町村会をあげてやっておりますし、管内では従来農業に対する危機的な取組みといいますか、例えば改良区とか、農協ですとか、町ですとか、議会ですとかそういうバラバラの運動を展開をなされておりましたけれども、管内ひとつになって緊急事態だという考え方で、道或は国に対する、或は国会議員の先生方に対する要請というのは今までなかった訳ですけど

も、今、町村会が音頭を取りまして、管内の農業団体の関連する団体の皆さんのお集まりを頂いて、今この空知の農業をどうするのだという論議を始めようとしております。そういう意味でも、私どもも危機感を持ってますけども管内全体でそういう危機感をもっておりますので、そういう中で、国・道に対してですねもう少し農業というものに対する考え方を改めてもらおう。そういう要請をきちっと数字をあげて要請をしていかなければならないと思っております。最近は中央要望なんか行きましても、ただ単に要望するというだけでなくて、個々の農家が昭和６０年代から今日までこういう経過で、今現状はこういう厳しさにあるんだという資料を見せて、具体的な数字をあげて説明するという事まで今やっておりますので、やっと今北海道の農業が大変なんだなあというのが、国会議員の先生方も分かり始めてきたのかなという思いでおります。勿論、農業専門に考えている議員さんもいらっしゃいますから、そういう方はやはりそれなりの資料を各地からもらってますので、早い時期にそういう理解をしておりますけれども、全体として農業はそれだけ厳しい状況におかれているという事は、中々分かってもらえなかったのかなと今、思っております。そういう意味では、国・道に対してはそういう要請を続けていきたいと思っておりますし、私どもさっき室田議員さん、それから杉本議員さんから質問ありましたように、長期の展望と言うのはやはり色んな面で考えていかなければなりませんけども、その長期の展望の上に立って、やはり短期で今すぐ何をしなければならないかという事も考えていかなければならない。この辺はやはり、まさに農家の皆さん方の意見、それから農協、土地改良区、そういう関係団体の皆さん方の意見を聞きながら、早急に平成１２年度の予算で取り組むものは、取組んでいかなければなりませんし、１３年度に取組むものは１３年で取組んでいかなきゃならない。そんなような考え方でおります。いずれに致しましても、国、道のそういうものが見えないとすれば、まだ先の事だとすれば、沼田としてはそれではどうすべきかという事を論議する必要があると思いますので、これらは今も申し上げましたように役場がリードして行かざるを得ない状況かと思いますので、役場がリードをしながら、農協、改良区とも十分連携を取って手を打つものがあれば、平成１２年度の予算にでも手を早く打って、離農をする農家が１戸でも減るように努力をしていかなければならない。そうしなければ、沼田の地域というのは農業が基幹産業ですから、地域の崩壊に繋がっていくという危機感を私どもも持っておりますので、そういう意味では繰り返しますが、早期に農協あるいは土地改良区とも協議をしながら、平成１２年度の予算に対する考え方をまとめて行きたい。その過程でまた議会の皆様方の、議員の皆さん方の御意見も

拝聴させて頂きながら、具体的な取り組みの方策を検討させて頂きたいと思います。今すぐ、何をするんだという答弁が中々難しいという事だけご理解頂きまして、１２年の予算の中では何らかの方向を位置付け出来るような、そういうようなものを考えていきたいというふうに思いますのでご理解賜わりたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）はい、９番。

○９番（横山忠男議員）ありがとうございます。農協の方でも、かなり心配をしておられて、色んなシュミレーションもしているようでございます。どうか、農協或は改良区等々、～～～詰めたお話をして頂いて、これはもう急を要している問題かと思っておりますので、どうか早い時点で予算化して頂いて、この流動化促進にひとつやって頂きたいと思っております。答弁はいりません。

○議長（吉田好宏議長）はい。１３番、絵内議員。観光問題１について質問して下さい。

○１３番(絵内勝己議員)１３番、絵内です。観光問題についてお伺いしたいと思います。先程来、各議員さんから観光問題につきましてご質問がございましてので、私の方からは簡素化に重複をしないように要点だけ、お伺いをさせて頂きたいと思います。

明日萌駅周辺の整備についてですけども、トイレの整備をはじめ、道路の傍等に雪で潰れた家がそのままになっておりますが、これにつきましては行政の直接的な責任ではありませんけれども、私も近い関係上、明日萌駅に何回か足を運んだところでありますけれども、そんな中で、観光バスから降りて、観光バスに乗る時にたまたま沼田町って何故もう少しそういったところにも、手を加えないのかなという言葉を何回か聞かされたのが事実であります。そういった事を考えた時に、町でいくらかの助成を出してでもその整備を進めては如何と思いますけれども、町としてのお考えをお伺い致したいと思います。

○議長（吉田好宏議長）地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）絵内議員のご質問にお答えしたいと思いますけども、駅前周辺の整備につきましては先程来、答弁させて頂いておりますが、空き地・空き屋、恵比島もかなり人がいなくなりまして、古い建物がそのまま放置され、議員さんの言われるとおり朽ち果てた残骸が残っているのが非常に目につくところでございます。これらにつきましては、町の空き地・空き家の条例がありますので、それと照らし合わせまして所管課と協議しながら撤去するなり、なんらかの対応をしていきたいと考えておりますのでご理解を頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○１３番(絵内勝己議員)－再－　トイレの関係についてですけれども、こういった問題につきましては、町長もそれぞれ各団体の皆様方との懇談会の中で、こういった要請等々がされている訳でありますけれども、それに対して町長も前向きに答弁されておりますので、私の方から重複するのかなという感じがしますが、観光事業の大事な要点というのは食べる事と、トイレ関係がやはり綺麗に整備されていないと、その目的といいましょうか評価というのが非常に少ないのかな、それが一般的に言われているように考える訳であります。その事を考えた時に、恵比島におきましては下水道が無い訳でありますけれども、浄化槽等の装置等を付けた、さわやかなそういったひとつの方法で取組んでいただきたい訳であります。本年につきましては、4月以来の観光客の大幅な増によっての対応等におきましては、今のような、簡易トイレでも良かったかと思いますけれども、やはり長い目で取組んで頂き、町が管理するトイレの設置等を観光客の少ない時期に、多少無理をしてでも早急に取り組むべきというふうに考えますので如何でしょうか。

○議長（吉田好宏議長）地域振興課長。

○地域振興課長（藤間武課長）ちょっと、ご質問の内容を省きまして、申し訳ございません。明日萌駅の周辺の整備につきましては、売店それからトイレの配置等、今検討中でございます。トイレにつきましても、今年度は各観光協会の方でも簡易トイレを設置したり、各団体の方で設置してくれた簡易トイレもございます。ですが、中々そういう部分で水洗化或は簡易水洗という形のトイレでは無いのが事実でございましたけれども、その辺で観光客の多少の苦情も私どもも聞いてございます。これらにつきましても、先程から申し上げているとおり駅前の土地の関係、或は今使えそうな建物の関係、それぞれ地権者或は、所有者の方に打合せをさせて頂いております。それらの買収が可能であれば、これらについてもトイレの設置等も検討して参りたいと思っておりますのでご理解を頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）いいですか。はい。同じく、定住促進問題２について、質問して下さい。

○13番(絵内勝己議員)それでは次に、定住促進問題についてお伺いを致したいと思います。定住促進で、進められてきました柳町団地の整備が10月に完了いたしまして、11月より分譲開始され、１２月８日現在３区画が契約されておりますが、団地のＰＲにつきましては、町の広報初め、新聞等に入れたチラシ等が町内外に配付されておりますが、今の時代、インターネット等を利用するなど色々な方法があるかと思いますけど、今後のＰＲの方法に

ついてお伺い致したいと思います。
○議長（吉田好宏議長）はい、財政課長。
○財政課長（中村幸雄課長）この定住促進団地の関係でございます。通称、ニュータウン四季という事で命名しておりますが、この分譲に募集につきましては今のご質問あったとおりですね、また合わせて先程町長の一般行政報告の中でも、報告させて頂きましたが、１１月１０日から分譲開始させて頂いております。ちなみに議員さんの方からも、色んな質問の中でもありますが、今までＰＲしてきた内容について若干ちょっと報告させて頂きますが、まず１１月１０日から町内或は北空知の中で、幌加内と雨竜は外しましたが、それ以外の北空知の市町村全部にですねＰＲのチラシを１０日付けで配付させて頂いておりますし、また、１３日の日には、ご承知と思いますけど道新の空知版にもこの募集の記事がのせさして頂いております。また、１１月の２４日の日になりますが、再度、町の広報誌でお知らせ版、だいたいＢ５版の１面を使いまして第２段という事で町内の皆さん方にも募集のお知らせ版を流しておりますし、同じ日に東京沼田会或は、札幌沼田会があるんですが、そちらの方にも郵送さして頂いております。また、それ以外にも、北竜の工業団地に入っております企業の方にも、職員が直接出向きまして内容を説明致しまして、募集の協力を要請してきたところでございます。また、ご質問の中にあります、インターネットの関係につきましても只今、３町の広域園で開設しております、スリーリンクというインターネットの事業がありまして、その中にもそれぞれ募集の記事も載せさして頂いております。今後の、ＰＲの方法という事でございますが、この関係につきましても従来同様、いろいろな会合の折には、従来同様にいろいろＰＲをしていきますが、もうひとつ考えられるのがすずらんのロケ地、明日萌駅ですね、来年早々映画化されるという話もありますし、今年度も６０万人以上の人がきておりますので来年も多くの観光客が入って来るのではないかと見込まれておりますので、できれば明日萌駅の農産物の物販の場所があるんですが、その一角等にもＰＲのチラシ等を備え付けましてＰＲをしていきたい。そのように考えておりますので宜しくお願いしたいと思います。
○議長（吉田好宏議長）はい、１３番。
○１３番（絵内勝己議員）－再－　ご案内のとおり、今の時代は車社会であります。そんな中、通勤するに当たりましても２０分や３０分というのは通勤圏内かと考えます。そんな中、各企業で働いている人に今までに沼田以外に家を建てられた人、何人かに私も聞いたところでありますけれども、何故沼田以外に家を建てられたんですかというふうにお伺

い致しました所、どうせ建てるのであれば雪の少ないところに建てたくて、家を作ったんだという回答が殆どでありました。そういった事を考えました時に、今それぞれこういった方法で進めておりますけれども、必ずしも十分とは言えないのではないかな、そんなふうに考えるのであります。そこで、ひとつの提案でありますけれども、只今、担当課長の方から御説明ありましたように、それぞれのこれからの方法についても聞かされた訳でありますけれども、私はまたそこで、こんなひとつの方法もどうかなと感じるところであります。今、各会社で、それぞれ働いている皆さん方というか、若い皆さん方といいましょうか、そういう言い方しましては大変失礼かと思いますけれども、今のこの状態を考えた時に、各会社を通じ、社長さんを通じまして、従業員の皆さん方にそれぞれパンフレット等を配りながら、社長さんの方より従業員の皆さん方に説明もしてもらう方法もとるべきかというふうに思いますので、なお一層の御検討を頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）財政課長。

○財政課長（中村幸雄課長）先程も、ちょっと申し上げたんですが、そういう企業関係につきましても、それなりに責任のある方の所に出向きまして、協力要請をしておりますし、只今ご提案ありました件につきましても、十二分これからのＰＲに活かしていきたいと思います。宜しくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）はい。

○１３番（絵内勝己議員）－再々－　それでＰＲする上において、私も現地に何回か足を運ばさして見てきたところでありますけれども、現在それぞれ分譲番号１番、２番についてなんですけれども、宅地のすぐそばが４ｍ前後のそれぞれ法面がそのままの状態なんですけれども、その事を考えた時に私達人生の上において、家を建てるという事は１度あるか２度あるか、だいたいそういったものかなと思います。そういった事を考えた時、人生の上において最大の事業かと考えます。その事を考えた時に、あの１番、２番といいましょうか、太刀別川の方の法面について、そのままの放置状態で安全柵が何もない訳ですけども、ひとつの商品としてああいった状態で如何なものかというふうに考えますけども、建設課長如何でしょう。

○議長（吉田好宏議長）建設課長。

○建設課長（野々宮宏課長）只今の法面の対策に関しまして、ご質問でございますけれども、恒久的な対策と致しましては、町づくり懇談会でもご提案頂いたところでございますけれども、土地改良区と協議致しまして、そのご指摘の箇所を埋設して法を緩やかにする

というような事も検討しておりますが、当面、今年法面を整形し直しまして、張り芝等で処置しておりますので、恒久的な関係につきましては今後継続して、検討さして頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）それでは次に、ごみ処理問題３について、質問して下さい。

○１３番（絵内勝己議員）それでは、ごみ処理問題につきまして、ご質問させて頂きたいと思います。先程、山田議員さんからもご質問ございましたので、私の方からは簡略に要点だけご質問させて頂きたいと思います。

ゴミ処理につきましては、ダイオキシン問題が起きて以来、住民の皆さん方も非常に関心の高いところであります。～～～～～～町も今後ゴミを分別して、収集する計画のようですが、ゴミは少しでも少なくするのが基本的と考えます。そこで、生ゴミの処理についてですけども、家庭用の生ごみ処理機、市販で10万以下である訳ですけども、そういったものを町が幾らか助成をして取組んでもらうような方法をとっては如何かと思いますけども、如何でしょうか。

○議長（吉田好宏議長）住民生活課長。

○住民生活課長（佐藤幸一課長）生ゴミの処理についてですが、現在焼却処理をしてございます。先程、山田議員さんの関連のご質問にもお答えしたとおり、平成１４年の１２月から、既存の今使用してございます北空知衛生施設組合の焼却施設が使用出来なくなりますことから、中・北空知ブロックの広域化検討協議会で生ゴミについては堆肥化、又はメタンガス化により処理する方向で今、検討されている所でございますが、この処理コストとそれからご指摘の生ゴミ処理機の助成額の比較と４町で構成しております、北空知衛生施設組合で協議検討させて頂きたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

○議長（吉田好宏議長）１３番。

○１３番（絵内勝己議員）－再－　この問題につきましては、それぞれ町内のご婦人の方からのご意見であった訳でありますけども、ご婦人の方も仕事に行かれるのが早い人でしたら、朝６時半頃からそれぞれ仕事に行かれる訳ですけども、そしてこの問題がどうしてもこんなふうにしてお願いしたいというふうにその人から言われたのは、何人かいたわけですけども、朝６時半頃ゴミを出してからゴミを収集するまでの時間帯がある訳ですけども、その間にカラスを初めそれぞれ小動物による散乱というのがたまに、散見される訳ですけども、そういった事を考えた時に、ゴミが散らかった時に自分のプライベートの部分もあるので非常にビクビクしながら取組んでいるとか、出しているのが実情なのでそれぞ

れそんなふうにして生ゴミの処理機等がいくらかの助成を頂いて、購入をさせて頂けるならば今、先程来いろいろ話がある訳でありますけども、それぞれのご家庭の家庭菜園の方にも回せるなり、そういったひとつの方法があろうかと思いますけれども、如何なものでしょうか。

○議長（吉田好宏議長）町長。

○町長（西田篤正町長）今、絵内議員さんのご質問は、ゴミを出さないで自分のところでそれを消費したら良いというご意見だと思いますので、これは勿論私どもとしてもゴミが減るという事はありがたい事ですから、是非来年の予算に向けてですね、検討させて頂きたいと思います。金額的なものはいろいろあろうかと思いますけども、その辺も各町村の取組んでいる状況等を調べながら、是非検討させて頂きたいと思います。

○議長（吉田好宏議長）よろしいですか。はい。

○議長（吉田好宏議長）それでは、お諮りいたします。本日の会議はこれで延会いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（吉田好宏議長）ご異議なしと認めます。よって、本日はこれで延会する事に決しました。本日は、これにて延会致します。大変ご苦労様です。

１６時３７分　延会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するためにここに署名する。

議　　長

署名議員

署名議員